

「小中学生に農業に興味を持ってもらい農業高校生を増やすためにできること」

クラブ員代表者会議 中国ブロック連盟 山口県立山口農業高等学校
生物生産科 3年 藤田 乃愛
生物生産科 3年 藤永 うらら
生物生産科 3年 宮内 夢叶

1 中国ブロック連盟について

私たちの所属する中国ブロック連盟は、鳥取県（5校、566名）島根県（5校、1,162名）岡山県（8校、1,824名）広島県（6校、1,443名）山口県（6校、987名）の5県、クラブ員数5,982名で構成されています（令和2年時点）。全国大会が岡山県で開催された2017年ごろは6,387名であり、中国ブロック連盟のクラブ員数は年々減少しています。

2 山口市と山口農業高校の紹介

（1）山口市について

山口市は豊かな自然と歴史が共存する文化都市です。大内文化を中心に歴史のある観光地が多くあります。日本3大名塔のひとつである、国宝瑠璃光寺五重塔や、萩往還、明治維新ゆかりの地など、歴史ある史跡が多く存在します。市内には温泉地が7か所あり、中でも全国有数の温泉資源に恵まれた湯田温泉は、無料で使える足湯が6か所あるなど、温泉巡りが楽しめる街となっています。また、近代詩人の中原中也のふるさとでもあり多くの人が訪れています。そして南北に広い山口市は、気候に応じて様々な作付けがされており、リンゴやブルーベリーなどの果樹や、はなっこりーなどの特色ある野菜の生産が行われています。このような魅力ある観光資源を活用し、特徴ある地域産業を推進することで、山口市は地方創生、地域活性化に取り組んでいます。

（2）山口農業高等学校について

山口農業高校は、山口県のほぼ中央部に位置しています。北に萩市、西に美祢市、南に防府市が隣接しています。本校の生徒数は409人で、ほとんどの生徒が山口市から通っています。

本校は、生物生産科、食品工学科、生活科学科環境科学科の4つの科があり、県内に6校ある農業関係高校の中心校です。各科の生徒が特色ある学習活動を展開し、地域連携に取り組んでいます。

生物生産科では作物、野菜、果樹、草花、大家畜、小家畜の6部門があり、専攻生が日々栽培、飼育管理を行っています。食品工学科ではパンの



製造、ジャムや味噌の製造などの様々な加工実習や食品分析実験を行っています。生活科学科では様々な講師を招聘し、調理や保育などの専門性の高い学習を日々行っています。環境科学科では、実地での体験学習を豊富に実施しており、林業や造園、測量分野の学習に精一杯取り組んでいます。それぞれの科で、地域農業の課題を探し、地元の活性化につながるようなプロジェクト活動を展開しています。



3 本校の課題研究の取り組みや地域連携の例

本校では、2年次から作物、野菜、果樹、草花、大畜産、小家畜の6つの専攻班に分かれ、専門的な学習活動を行います。その専攻班ごとの課題研究で取り組んでいるプロジェクトを、いくつか紹介します。

野菜班は、昨年度から様々なトマトの品種のうち、どれが消費者に最も好んで食べてもらえるのかを調べています。去年は、赤、黄色、緑、茶色の各品種から、食味評価の高いトマトを選抜しました。本年度は、昨年評価が高かった茶色（ゼブラ色）のトマトを中心に引き続き食味調査を続けています。トマトが好きな人と嫌いな人は分けて調査を進めており、トマトが苦手な人でも食べやすい品種を探しています。もともとは校内販売に役立てるために研究を始めましたが、この結果を地域の農業生産者の方に公開して、生産や販売に役立てていただけないか考えています。

大家畜班はヤギの除草効果について調べています。本校畜産棟にある山に柵を設けて、ヤギを3～4頭放ち、除草効果を調べています。こちらも昨年からの研究を続けており、結果としては広範囲に除草効果が認められ、人が行う除草作業の時間と除草剤費用を削減できることがわかりました。しかし、一方でヤギが食べられない雑草もあり、これは人手であらかじめ除草する必要があるということが課題として残りました。

果樹班は本校の気候条件でパイナップルが育てられるかどうか実験しています。ハウスに入れて昨年度からの生育を記録しています。まだ花が出てきていませんが、順調に成長し、高さがでてきたものもあります。これまで山口市内でパイナップルの生産はほぼ行われていないため、この研究でパイナップルの生育が見込めれば新たな作付けの可能性が生まれます。

本校では、これまで近隣の小学校と定期的に交流活動を行ってきました。交流活動とし

て、小学生に農業クイズや本校の学科、実習の内容をスライドにまとめ、発表しています。小学校、高校とお互いに行き来をし交流を図っています。また本校に来てもらい、農業実習の体験をし、実習を通して、小学生に様々な作物に触れてもらい、農業の楽しさを実感してもらおうのがねらいです。



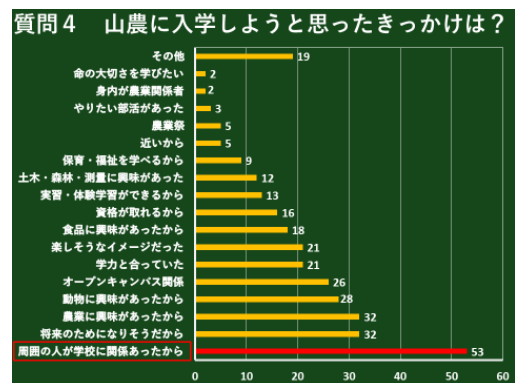
4 分科会テーマ

(1) 山口農業高校生を対象にしたアンケート実施

中学生の時の農業高校に対するイメージを調べるために、全校生徒へアンケートを行いました。アンケートの質問とその結果について説明します。はじめに、小学校の時に山口農業高校で交流活動をしたことがあるか聞きました。結果としては、全体の5%の人が交流活動をしたことがあると回答しました。次に、中学校の時に山口農業高校のオープンキャンパスに参加したことがあるか聞きました。結果としては、全体の約半数が参加したことがあると回答しました。次に、山口農業高校での交流活動やオープンキャンパスが入学に影響したかどうかを聞きました。結果としては、大いに影響があったと答えた人とやや影響があったと答えた人があわせて55%となりました。最後に、山口農業高校に入学しようと思ったきっかけについて聞きました。

その結果、最も多かったのは、「周囲の人が山口農業に関係あったから」でした。

これは兄や姉などの兄弟姉妹が山口農業に通っているからという理由や、父母が、昔通っていたからなどの理由です。続いて「将来のためになりそうだから」、「農業に興味があったから」と答えた人が同率2位でした。



これらのアンケートを踏まえて、考察を行いました。

まず一つ目に全校生徒の入学したきっかけの上位にオープンキャンパスへの参加が入っていることから、オープンキャンパスは中学生にとって農業高校を知り、興味を持ってもらうための有効な機会になっていると考えられます。しかし、小学校の時に交流活動を経験した人が、全校生徒のうち5%であり、小学生時代の農業体験や交流活動が入学にあまり影響していない結果が出ました。

これについては、小学生の頃の体験は、高校受験の時期には覚えていないかもしれない。小さいときはまだ農業分野という意識ではなく、楽しい行事として記憶されている、などの理由が考えられます。

(2) 小中学生や子供たちに農業に興味を持ってもらうための観点について

アンケート後に、小中学生たちに農業に興味を持ってもらうためには、どのような観点が必要なのかを整理しました。一つ目は農業を知ってもらう対象は誰なのか意識することです。多くの方が進路選択を強く意識しはじめる中学3年生を対象にした活動の方は、効果が高いと思います。小学生を対象に農業体験をしてもらっても、まだ具体的な進路を意識していないため、農業高校に入学するきっかけには繋がりにくいと考えます。高校受験

への意識が高まる、中学3年生へ関心を持ってもらうことが農業高校生を増やすカギになると感じます。二つ目は農業高校自体のイメージアップをしていくということです。農業高校生が地元に興味関心を持ち、地域に役立つ活動をすることで、受験生が高校に入学して地域の役に立つ活動をしてみたいと思ってもらえるようになると思います。農業クラブ員はプロジェクト活動などを通して地域に関わり、精一杯活動する姿を見せることや、学校の良い雰囲気作りを行うことが大切だと思います。三つ目は中学生の保護者に対してできるPR活動を増やすことです。私たちが中学生の時に進路を考えていたとき、やはり両親は最大の相談相手でした。「保護者や兄弟姉妹が農業高校への進学を勧めたから入学した」という本校でのアンケート結果でも分かる通り、相談相手となっている保護者に農業高校の良さを伝えることは、入学する高校の決定に影響すると考えられます。保護者の方へ専門的な学習ができて、他の高校にはない魅力があることを知ってもらえることが大切だと思います。

(3) クラブ員にできること

以上の観点を踏まえて、私たちクラブ員にできることを考えました。一つ目は、オープンキャンパスや農高祭での学校紹介パンフレットの活用です。今年度8月に行われた本校のオープンキャンパスには、私たち農ク役員が表紙となった冊子が配布されました。資料と関連した内容の紹介を行うことで、帰ってからもパンフレットを見て思い出してもらえる紹介ができました。また、このオープンキャンパスでは中学生の保護者にも同様に学校紹介を行っています。二つ目はHP等を利用して学校の活動紹介を行うことです。HPに加えて、インスタや公式ライン、またはリアルタイムの配信も活用しながら同じように農業高校の紹介ができればいいのではないかと考えています。中学生にも見てもらいやすいメディアを活用していけば、入学前にどんな学校なのか知ってもらえると思います。最後に、どんな内容を紹介するのか話し合いました。私たちが考えたのは、畑の状態を定期的に投稿したり、実習の動画を作成して投稿したりすることです。また、具体的な活動として総合的な探究の時間を使い、農業高校の紹介スライドを誰が一番うまく作れたか競うコンテストを行いました。今後作成したスライドを使って中学生への学校説明会を実施する予定です。



5 まとめ

農業高校生を増やすためには、誰に学校をPRするのか意識して行うことや、地域の課題に取り組むなど、頑張る農高生、活躍する農高生の姿を見せることが大事だとわかりました。今後も日ごろのプロジェクト活動や、クラブ員の様々な取り組みの成果の積み重ねが農業高校を変えるという意識を持って活動していきたいと思っています。